



第590号

2024年3月6日

発行:自治労連千葉県本部
千葉県中央区長洲1-10-8 自治体福祉センター内
URL http://www.jichiroenchiba.jp/
責任者・片山 敦史 編集長・實川 理

富山国保病院労組

住民と共同の運動で病床移管を撤回

病院は地域の宝



(写真左から) 病院労組の渡辺委員長と羽山書記長

南房総市の石井市長は昨年2月、市立富山国保病院の病床移管と職員解雇の方針を発表しました。これに対し病院職員は職員団体を結成し、住民団体「富山国保病院と地域医療を守る会」と連携して署名などにとりくみました。その結果、市長は先の方針を撤回し、今後の病院のあり方については継続協議にすると発表しました。この間のとりくみについて、病院労組の渡辺委員長と羽山書記長にお聞きしました。

悔しかった

職員解雇の方針を、どう受け止めたか？
【渡辺委員長】職員向け説明会は2回あって、1回目では何だかわからず、2回目の職員説明で、病院廃止の期限が示されたので、ようやく「本当に終わるとい意味なんだ」とわかりました。

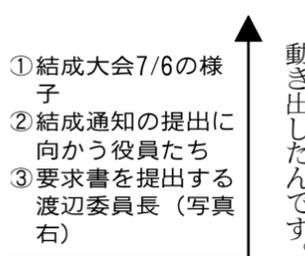
【羽山書記長】その時は「整理解雇」の言葉の意味もよくわからず、まさか公務員にクビがあるとは思っていませんでした。
【渡辺】病院職員は新型コロナで大変な中で頑張ってきたが、その間、市長は一回も病院に来ていません。コロナ専用病院にする判断をした市長が、いきなり病院を無くす



①



②



③

- ① 結成大会7/6の様子
- ② 結成通知の提出に向かう役員たち
- ③ 要求書を提出する渡辺委員長(写真右)

【渡辺】労働問題に詳しい弁護士に相談に行ったところ「個人でやったらつぶされるから、まとまってやってくれないよ」とアドバイスされ、組合を作ることが、選択肢として出てきました。そこから、医労連や自治労連に相談して結成へ動き出したんです。

皆の加入が心強かった

結成までは順調だったのですか？

【羽山】「組合は必要。あったら入りたかった。皆に呼びかけるところ病院職員の7割が組合に入ってくれた。正職員では加入率は9割になりました。組合の団結力を示すことができ圧力になったと思います。仲間がいるということが本心に嬉しかったです。

ただ、役員を誰がやるのかについては、さんなりはいきませんでした。最終的に役員は、弁護士に相談したところから動いていたメンバーが中心となりました。

【渡辺】私は一番トシをくってるから、矢面に立つしかないなど。管理運営事項でも交渉できる

【渡辺】7月に組合結成の通知を石井市長に出しに行き、その日に要求書も提出したので、当局は「交渉に上部団体の出席は認めない。病院の運営方針は管理運営事項だから交渉事項にあたらな」と言っていて交渉を制限してました。

病院を存続させ職員を守ろうと組合を作ったのに、いきなり「交渉事項ではない」と言われ、面食らいまし

経過の一覧表 市・住民・組合の動き

時期	内容
2023年	
2月	●市が富山国保病院廃止計画と、職員の全員解雇方針を職員に説明
4月	
6月	●市長が議会で富山国保病院について答弁
7月	◇住民が地域医療を考える市民学習会開催 141人が参加 ◎富山国保病院労働組合結成、結成通知と要求書を提出
8月	◇住民団体「富山国保病院と地域医療を守る会」結成。病院の存続を求める署名開始
10月	◇住民が署名提出① 9342筆、署名新聞折込実施、市議会への働きかけ開始
11月	◇住民が署名提出②13042筆、住民説明会開催の要望書提出、パンフレット発行 ◎労組が団体交渉を実施 ●市が住民説明会①
12月	●市が住民説明会② 移管計画を撤回 ●市が職員向け説明会①② ◇住民が「守る会ニュース」新聞折込 ◇住民が署名提出③ 18298筆

※ ●が市、◇が住民、◎が組合の動き

【羽山】物価上昇のもと、組合の交渉はますます重要となってます。以前の私は賃金制度は「すでに決まったこと」だと思っていたが、交渉で変えていけるものということがわかりました。

住民の力で病院の存在意義を実感

【渡辺】私は、そもそも賃金制度についてほとんど知りませんでした。特に会計年度任用職員の処遇に関する知識はゼロだったので、「勤勉手当」「遡及」など、いろいろ勉強になりました。処遇に関することについては今回の交渉でもかなり前進がありました。職場の改善、看護補助職員の確保、待遇面の改善など、組合として

交渉で大幅な処遇改善を勝ち取る

【羽山】私は、そもそも長年この病院で働いてきました。住民説明会で、患者やその家族に対する感謝を発言し、直接市長に病院を守ってほしいと言ってくれたのが、何より嬉しかったんです。病院には存在意義があるんだと感じました。

住民のつながりがうねりを作り出した

署名は、8月に始めて取り組むべき具体的な課題もはっきりしてきました。でも、上部団体の交渉参加を認めさせ、管理運営事項についても、雇用や賃金労働条件に関わることは交渉事項になることを確認しました。組合の交渉である程度やっていけると見通しが持てました。

「皆のため」が「自分のため」に

組合をどう感じていますか？

【羽山】物価上昇のもと、組合の交渉はますます重要となってます。以前の私は賃金制度は「すでに決まったこと」だと思っていたが、交渉で変えていけるものということがわかりました。

【渡辺】私は、特にやりたかったわけではなくて、必要に迫られて組合をやったわけなんです。個人は限界があるから組合は大事」ということですね。法的な効力のある組織ですから、職員の存在を無視せず意見を聞かせることができます。組合でみんなのために頑張ることが、自分のためにもなるんです。

(県本部・黒濱)



住民説明会 (11/23)



市長への署名提出 (10/12)